

活躍する卒業生 | Active graduates

林大輔 | はやし・だいすけ

ノボノルディスクファーマ株式会社 開発本部 臨床推進部 CRA (Clinical Research Associate / 臨床開発モニター)



林大輔

2013年度
大学院工芸科学研究科
博士前期課程
応用生物学専攻 修了



Fig.1——職場にて

Fig.2——在学中の研究室での記念写真



スケールの大きな学びが

工織大の魅力

京都出身の私は、京都あるいは近隣の理系学部への進学を考えていました。工織大はその条件に合致し、また難易度も高い国立大学のため、能力を向上させることができるかもしれない、というややふんわりとした状態で決めたことを覚えています。ただ正直なところ“工芸繊維”って何だろうというのが第一印象でした。もともと生物が好きだったことから応用生物学を選んだものの、“工芸繊維”にモヤッとしていました。しかし、入学後すぐに講義や嵯峨キャンパスでの実習などを通して、学問の幅広さやスケールの大きさに圧倒されていきました。そうして最先端の知見に触れ続け、結果として基礎研究に興味を覚えた私は、バイオメディカル教育研究センターの研究室を選びました。

研究テーマはショウジョウバエを用いた細胞分裂に関わるタンパク質の解明でした。細胞、タンパク質さらに遺伝子といった生物学の根幹に関わる分野にどっぷりと浸かった私は、誰も知らないこの世の謎に触れている気がして研究に没頭しました。その頃は社会人になった自分なんて想像できませんでした。振り返れば、教員からの指導やメンバーと試行錯誤した日々がしっかりと自分の血肉になっています。

研究で得た知識を生かし、

製薬の道へ

就職活動の際は数多のエントリーシート・面接を経たため大変でしたが、少しでも学んだものと繋がりのある仕事を選んだつもりです。運よく製薬の臨床開発に関わる企業から内定をいただき、その後、製薬メーカーへと転職しました。現在の業務内容は臨床開発モニター (CRA) と呼ばれるもので、大まかに言えば、治験をマネジメントする仕事です。日本各地にある病院へ赴き、医師へ治験の説明を行い、患者への投薬を実施していただきます。

正確なデータを得ることや人権・法令を遵守するために細かい手順が設けられており、病院スタッフとの綿密なやり取りは必須です。またプロジェクトは世界規模で進んでおり、情報のアップデートが常に欠かせません。

薬品や体内での作用機序といった専門知識はもちろん、多くの関係者を巻き込むコミュニケーション力、また常に向学意欲が問われます。これこそまさに大学で培った自分の強みだと感じています。仕事は大変ではありますが、関わっている開発品が患者の不幸を減らし、その家族の安心に繋がっていると強く実感しながら日々業務に励むことができます。

大学での経験が人生の土台に

大学は知識や精神を養い、大きく育てるところだと思います。研究の道へ進むもよし、就職するもよしですが、大学で培った経験とスキルはその後の人生の土台になります。大学を出ると、その後はより専門性を磨いていく必要があります。私の場合、製薬というビジネスにおいて競合他社を凌ぐ新規性やスピードを日々求められます。それはエキサイティングで果てのない世界であり、時にはここが全てであるように錯覚してしまいがちですが、ふと大学のことを考えると、他にもいろんな世界があったこと、何かの縁で今自分がここにいて、もがいていることを思い出します。私にとっての大学は分岐点であり、原点として立ち返る場所かもしれません。

大学では研究に打ち込み、その時のメンバーもそれぞれ活躍しています。そんな彼らに恥じないようにという思いがどこかにあるのかもしれません。ぜひそんな時間や思いを工織大で見つけていただけたらと思います。

京都工芸繊維大学はユニークな大学です。研究はもちろん、面白い人間が集まる場所ではないかと思います。単科大学ゆえに独特なまとまりもあって、居心地の良さも備えています。世間は尖った人間を望んでいます。工織大にはそれを培う環境があり、ここで学んだ人は何者にもなれるチャンスを得られるはずです。

新規性やスピード感が求められる製薬の世界。
大学で磨かれた向学心が大きな強みに。